

# 自転車利用実態定点調査報告

平成28年 12 月

(一財)日本自転車普及協会

**調査目的** 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

**調査日時** 平成 28 年 11 月 25 日  
[午前]8:00~8:50

**調査場所** ・ 都立〇〇高校(共学)  
**概要** ・ 調査対象(高校生の自転車通学実態)

**調査事項** 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票

No.	走行空間				危険走行			
	車道	歩道	自転車道	その他	危険走行	危険走行	危険走行	危険走行
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								

調査日時： 平成 年 月 日
天気： 風速：
調査時間： 時 分 ~ 時 分

<調査票>

[コメント]

◎走行空間においては、車道左側走行率は、42%であり、車道右側走行率は、8%・車道中央走行率は、5%・路側帯走行率は、45%の結果であった。

◎危険運転行為は、並列運転/車道右側走行(各 28 件)・車道中央走行(18 件)・立ち漕ぎ(15 件)・カバン背負い/片手運転(各 7 件)・ハンドルに荷物(3 件)・肩に荷物(1 件)の順となっている。

【総合】

今回の調査は、引き続き、高校生の自転車通学の実態を調査したものであり、一般の人と比較して高校生が自転車のルール・マナーを遵守して利用しているかの判断基準となりうるものである。

車道左側走行率が、4 割強を占めており、比較的ルール・マナーの遵守率が、高い。

なお、危険運転行為の中では、並走運転及び車道右側走行が、全体(107 件)の各 26%(28 件)[両者で計 52%(56 件)であり半分の比率]を占めていた。

事故を招きやすいため、止めるべき行為である。

また、カバン背負いの生徒の一部は、校門通過左折(右折)時に、転倒する危険性が高まるので、極力避けるか、一時的に自転車から下車する等の行動が必須である。

なお、一部の生徒が校門直前での左右や後方確認をしていた。

因みに、同校での自転車通学の割合は、全校生徒(総数 700 人)の 6 割程度である。

校内には、自転車駐輪場が複数整備(総収容台数 500 台)されていた。

なお、自転車駐輪場は、学年毎に区分けされていた。

同校の登校時間(8 時 30 分)直前 5 分前には、多数の生徒が校門を目指す状況となっていた。

さらに、登校時間を過ぎても一部の生徒が、自転車通学をしていた。

今回、自転車通学用の校門は、正門の 1 箇所だけであった。

また、同校での自転車通学の条件は、特になく、車種制限についても、特に行われておらず、スポーツ車や小径車等で通学している生徒もいた。

因みに、同校では、自転車通学生生に対して登下校に際して通学指導を実施している。

また、交通安全啓発の一環として、本年 4 月に全校生徒を対象に交通安全教室(地元

警察主催)を開催した経緯がある。



自転車駐輪場(全景)



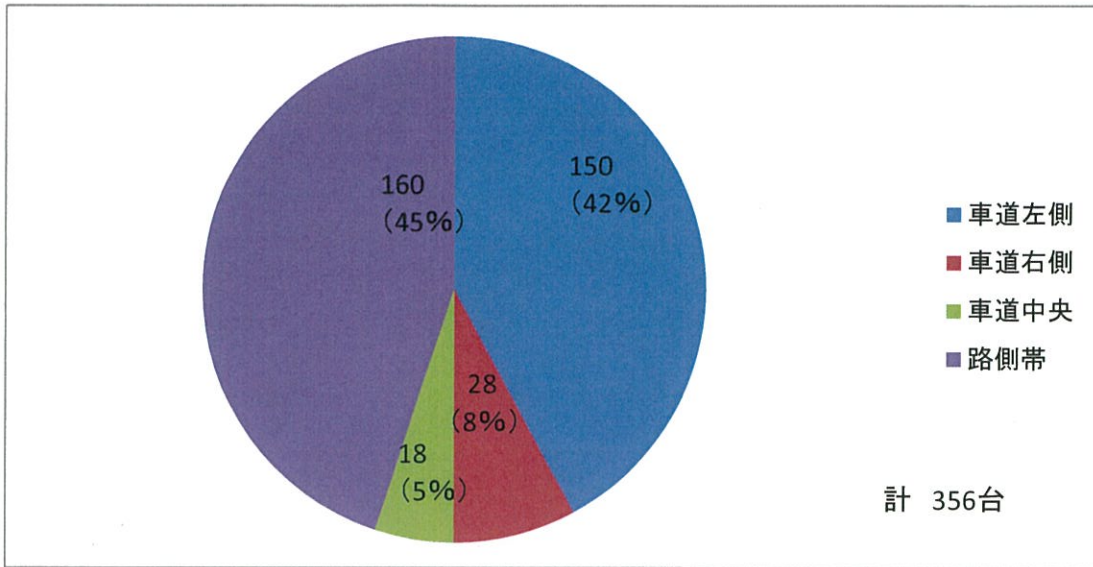
自転車駐輪場(1学年用等)



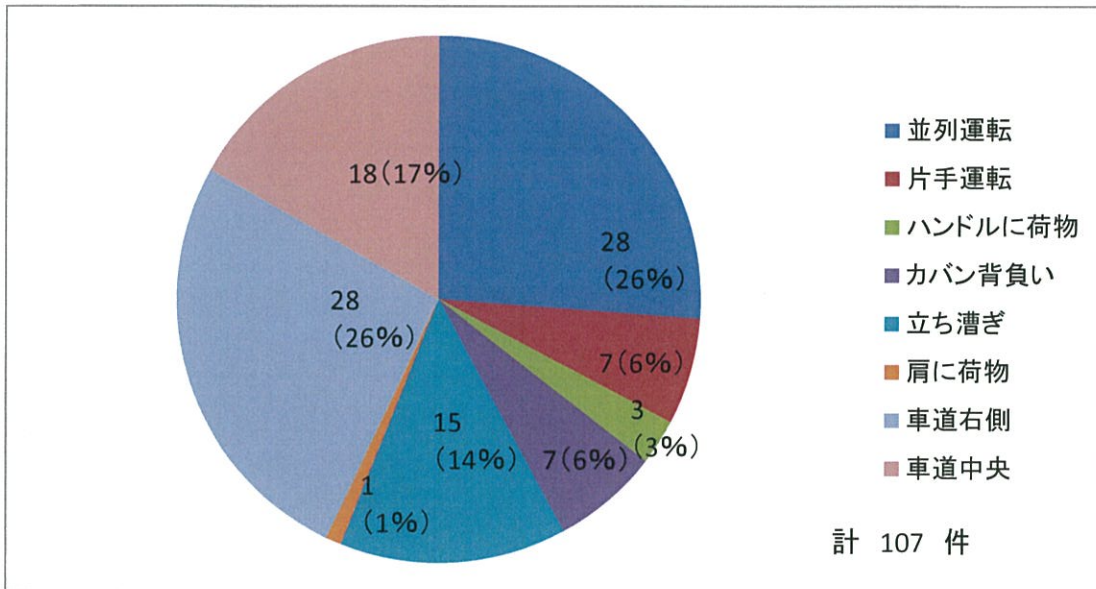
自転車駐輪場(2学年用)



自転車駐輪場(奥側)



走行空間



危険運転行為